2023年度

メディア教育　（メディア教育の現状と課題など）

担当

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学籍番号 |  | 氏名 |  |

1. 日本のメディア教育の課題の中で、学校教育の課題の1つとして「（メディア教育の）実施方法の確立」が挙げられます。そのためには、さまざまな実践を考え、効果的な実践方法を共有していくことなどが求められます。

実践を考える手がかりとして、以下のような「メディアリテラシーの5キークエスチョン：読解」（表1）があります。これらのキークエスチョンは、テレビ、雑誌、新聞以外に、ソーシャルメディアのメッセージにも用いることができるとされています。

また、授業で説明した「メディアインフォメーションリテラシー（MIL）」の観点からは、メディアが伝えるメッセージを判断するために、メディアが伝える対象についての情報・知識が求められます。

以上の点を踏まえて、中学生を対象として、表1と生徒がメディアが伝える対象についての情報。知識の習得を満たす実践を考え、800字以上（本文、引用文献欄の文字数は除く）で記述してください。実践に関する内容としては、実践の目的、使用するメディア、実践する教科、実践の時間数、実践の構成（個人ワーク、グループワークなど）、実践の流れ作業前、作業中、作業後）、実践の場所、実践の工夫点、評価方法などについての説明を含めてください。

表1：メディアリテラシーの5キークエスチョン：読解

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 1 | さ（作者） | 誰がこのメッセージを作ったのか？ |
| 2 | ぎ（技法） | どんな創作テクニックが私の関心を引くために使われたのか？ |
| 3 | し（視聴者） | このメッセージの他の人々の理解はどのように異なっているか？ |
| 4 | か（価値観） | このメッセージにはどんな価値観やライフスタイル、視点が表現されているか、あるいは排除されているか？ |
| 5 | な（なぜ） | なぜこのメッセージは送られたのか？ |

出典：坂本旬・山脇岳志(2022).メディアリテラシー　吟味思考を育む　時事通信社

1. 実践の概要：

現在、ソーシャルメディアからテレビ、広告、ニュースまで、メディアは情報を得たり、考えを形成したり、価値観を築くための重要な情報源となっています。そして、これがこの授業の重要性です。メディア教育の実践方法もこの授業において極めて重要な要素であり、したがって、該当する実践方法をどのように策定するかを理解する必要があります。

1. 実践の目的：

* メディア教育の基本概念を理解し、効果的な実施方法を探求する。
* 生徒のメディア情報の分析能力や批判的思考力を向上させる。
* 教育環境での実践を通じて、メディア教育の実施方法を理解し適用する能力を育成する。

1. 実践する教科:

国語、社会科、情報科など。

1. 実践の構成:

個人ワークとグループワークを組み合わせた形式。

1. 実践の流れ:
2. 問題介紹と話題の紹介（10分）：

五つの問題の重要性と意義を紹介し、これらの問題がどのようにメディア情報の分析と理解に役立つかを説明します。

1. 問題に関連するケーススタディの分析（15分）

関連するケーススタディを提供し、学生にこれらのケースのメディア情報を5 つの問題を適用して分析させます。

1. 個人ワーク：問題1 と問題2（20 分）

問題1：誰がこのメッセージを作ったのか?（1 人あたり10 分）

問題2：どんな創作テクニックが私の関心を引くために使われたのか?（1 人あたり10 分）

1. グループワーク：問題3 から問題5（30 分）

問題3：このメッセージの他の人々の理解はどのように異なっているか?（グループごと10 分）

問題4：このメッセージにはどんな価値観やライフスタイル、視点が表現されているか、あるいは排除されているか?（グループごと10 分）

問題5：なぜこのメッセージは送られたのか?（グループごと10 分）

1. 学生のディスカッション発表とまとめ（10 分）

* 各学生またはグループが、議論の結果と主要な観点をクラス全体に発表します。
* 5 つの問題に関する議論の要点と結論をまとめます。
* 次の授業の内容や、メディア教育のさらなる探求について展望します。

学生のグループ分けとディスカッションの組織：

個人ワーク：

* 各学生が個別に問題1 と問題2についてディスカッションし、それぞれ10 分ずつの時間が与えられます。
* 学生が考えや意見を記録することを奨励し、後のディスカッションのために準備します。

グループワーク：

* グループごとに 4-5 人の学生をグループに分け、それぞれが問題3 から問題5についてディスカッションし、各問題に10 分ずつの時間が与えられます。
* 各グループに異なる視点と考え方が含まれるようにし、多様性のある議論を促進します。

1. 実践の場所:

通常の教室で実施可能。

1. 実践の工夫点:
2. 生徒たちに実際のメディアを取り入れ、身近な事例を扱う。
3. グループでのディスカッションを通じて、他者の意見を尊重する姿勢を育む。
4. 実際のメディアに対する分析を通じて、実践的なスキルを磨く。
5. 評価方法:
6. 個人のメディア分析レポートやグループでのディスカッションへの参加を評価。
7. メディアリテラシーのキーコンセプトを適切に適用できる能力を評価。
8. ディスカッションへの参加、授業活動への参加、課題の達成状況
9. 実際にメディア教育カリキュラムやプロジェクトを設計・実施し、それに関する反省報告書の提出

引用文献：

1. "情報（メディア）リテラシー教育とは？必要性や大学における教育方法を解説." Nikkei Career Education, https://career-edu.nikkeihr.co.jp/category01/medialiteracy.html.
2. "メディアリテラシー教育." Keisen University, https://www.keisen.jp/education/media-education.php
3. "総務省 授業実践パッケージ." Ministry of Internal Affairs and Communications, <https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyoiku.html>
4. 坂元昂(1984) 自主シンポジウムI:「メディア教育の現状と課題」
5. "〜擬似 SNS でシェアしてみよう！〜 ソーシャルメディアでの情報受発信を考えるオンラインゲーム." . SmartNews SMRI, <https://smartnews-smri.com/redirect/g2wx71ym>.